

長野県富士見町で生育が確認されたメヤブソテツ (オシダ科)

大塚孝一¹・小林智子²・小山京子²・若宮稔美²・松下茂²・野崎順子²・佐藤利幸³New record of *Cyrtomium caryotideum* (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl
(Dryopteridaceae) from Fujimi Town, Nagano PrefectureKoichi OTSUKA¹, Tomoko KOBAYASHI², Kyoko KOYAMA², Narumi WAKAMIYA²,
Shigeru MATSUSHITA², Junko NOZAKI² and Toshiyuki SATO³

メヤブソテツ *Cyrtomium caryotideum* (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl はオシダ科ヤブソテツ属の常緑性シダで、葉は長さ 50 から 100cm、一回羽状複生でやや光沢があり、葉質は厚い紙質、葉縁は細かな鋭い鋸歯縁となり、包膜の縁は突起縁となる。朝鮮 (済州島)・中国・台湾・南アジア・ベトナム・フィリピン・ハワイに分布し、日本では福島県以南の本州、四国、九州に分布する (海老原 2017)。長野県では杉本 (1963-1966)、横内 (1983)、下伊那教育会 (1973) などのリストに記録があるが、標本情報等確かな証拠がなく誤同定の可能性もあり、「長野県植物誌」(長野県植物誌編纂委員会 1997) や「長野県植物目録」(長野県植物目録編纂委員会 2017) には記録されていない。また、「諏訪の自然誌植物編

(諏訪教育会 1981) や「富士見町の植物」(富士見町教育委員会 1979) に記載がなく、2021 年に発行された「諏訪教育博物館所蔵植物標本目録 (上巻・下巻)」(諏訪教育会 2021) においても、過去に本種の標本が採取された事例はなかった。今回、富士見町で本種の生育を確認したので報告する。

著者の一人小林からメヤブソテツではないかと大塚に同定依頼があり、その標本がまさに本種であったことから、2021 年 12 月 10 日に現地確認の調査を行った。調査には茅野市、富士見町など諏訪地域の植物を調査している茅野市八ヶ岳総合博物館市民研究員の方々も同行した。本種の生育場所は、スギ・ヒノキ林内を流れる水路沿いの石垣で、約 30m にわたり水路沿いに生えていた。生育環境及び生育状



図 1 メヤブソテツ, 富士見町, 2021.12.10. A: 生育環境, B: 生育状況, C: ソーラス, D: 包膜.

¹ 大塚 孝一 長野県長野市 kootsu51@yahoo.co.jp² 茅野市八ヶ岳総合博物館市民研究員³ 信州大学理学部名誉教授

況等は図1のとおりである。水路の上下斜面にはシダ植物としてヤブソテツ *Cyrtomium fortunei*、テリハヤブソテツ *Cyrtomium laetevirens*、オクマワラビ *Dryopteris uniformis*、クマワラビ *Dryopteris lacera*、オシダ *Dryopteris crassirhizoma*、ミヤマクマワラビ *Dryopteris polylepis*、アイノコクマワラビ *Dryopteris* × *mituii*、フジオシダ *Dryopteris* × *watanabei*、ミヤマオクマワラビ *Dryopteris* × *pseudouniformis* などが生えていたが、本種は水路ぞいの石垣のみに生えていた。個体数はソーラスがある個体が27、ない個体が7、葉の長さが10cm程度の幼株が23の全57個体であった。最大株の最大葉長は78cmであった。

さらに生育地では孢子から成長した未熟な個体も多数確認できることから、この生育地は本種にとって良好な生育環境かと考えられる。本種は石灰岩地を好む傾向があるが、関東以西から西南日本に多く、近年の地球温暖化に伴って分布拡大し定着した可能性もある。付近では、イノデ *Polystichum polyblepharon*、アイアスカイノデ *Polystichum longifrons*、ベニシダ *Dryopteris erythrosora* など暖温帯性のシダの生育が確認されている。これらは従来諏訪地域には分布していなかった種類で、「富士見町の植物」(富士見町教育委員会 1979)、「諏訪の自然誌植物編」(諏訪教育会 1981) などにも記録がない。

今回、長野県のフロラに本種を加えることができたが、近県では岐阜県、埼玉県、東京都などで絶滅危惧種となっている(日本のレッドデータ検索システム)。長野県内では他に確認されていないので、今後の動向に注視したい。

証拠標本

長野県富士見町上蔦木 alt.790m、小林智子 s.n.2.Dec.2021 (NAC); 同地、大塚孝一 s.n.10.Dec.2021 (NAC).

引用文献

- 海老原淳(2017)日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ, 学研プラス. 東京.
- 富士見町教育委員会(1979)富士見町の植物, 富士見町.
- 長野県植物誌編纂委員会(1998)長野県植物誌, 信濃毎日新聞社. 長野.
- 長野県植物目録編纂委員会(2017)長野県植物目録, 長野県植物目録編纂委員会. 長野.
- 日本のレッドデータ検索システム
メヤブソテツ <http://jpnrdp.com/search.php?mode=map&q=06010250398> (2021年12月確認).
- 下伊那教育会(1973)下伊那の植物中巻(下伊那産植物目録), 下伊那教育会.
- 杉本順一(1963-1966)長野県植物総目録, 長野林友(1963年から長野林友に連載され1966年に完結した).
- 諏訪教育会(1981)諏訪の自然誌 植物編, 諏訪教育会.
- 諏訪教育会(2021)諏訪教育博物館所蔵植物標本目録(上巻・下巻).
- 横内斎(1983)信濃植物誌, 信濃植物誌刊行会. 銀河書房.